

平成 26 年度  
第 1 号

# 『耕人塾』

『耕人塾』  
塾長木村民男  
平成 26 年 5 月 17 日 (土)

## 新生『耕人塾』で目指しているもの

本日から第 3 期の新生『耕人塾』がスタートすることになります。ご尽力いただいた多くの方々から感謝申し上げます。今年度は、過去 2 年間の成果と反省を生かし、塾生の主体性を伸長するために「世界に誇れる石巻をつくろう」という大テーマの下、グループでの実践活動を重視した研修を多く取り上げてみました。

『耕人塾』で目指しているのは、石巻地域の中・高校生が、自分はこんな人間になりたいという高い志を持ち、多くの人との出会いの中で自分を耕し、自分を高め、世のため人のために働く人間を育てるということです。そのためには、徳を養い、心と体を鍛え、知を高めることによって自己の「人間力」を磨いていくことが必要だと考えています。

今年度は特に、新生『耕人塾』として、塾生を 4 つの班に分け、その中に大学生や指導者も入り、実践活動を通じて「人間力」養っていきたいと思っています。8 月には 1 泊 2 日の宿泊研修を設け、その中で実践内容のまとめや発表・提言をする機会も作りたいと考えています。また、自然や人とのかかわりを大切に、楽しく充実した内容にしていきたいと思っています。『耕人塾』が中・高校生のみならず、大学生や市民の方々も含めた石巻地域の人材育成の拠点になることを願っています。

『耕人塾』では「人間力」を磨くために、次の 3 点を指導指針にしています。

- ① 社会貢献への高い「志」を持たせ、討論や実践活動を通して、「人間力」を向上させる。
- ② 「文・武・楽(学・道・スポーツや趣味)」の体験を通して、人間的な幅と深さを身に付けさせる。
- ③ 日本の伝統文化を体験させ、自然や郷土を愛する心を育て、礼儀作法を身に付けさせる。

中・高校生は、生徒会活動や部活動、学校の勉強等で多忙な時期です。そのような中で、自分の「人間力」を磨き、地域や社会に貢献しようという高い志を持って集まった塾生に対して敬意を表したいと思います。また、お子様の考えを尊重され、送迎までしていただく保護者の方々に深く感謝申し上げます。私たち指導者も若い人材を育てるために全力を尽くしたいと決意を新たにしています。『耕人塾』で育った人たちが、3 年後、5 年後、10 年後に石巻地域を牽引する人になってくれることを期待しています。

しょうねん の い やす く が く な り が た いっすん こういんかろんず  
「少年老い易く学成り難し 一寸の光陰軽んずべからず・・・」(朱熹)

という有名な詩があります。年をとるのは早いですが、学問(理想)を成就するのは難しいということですが、歴史の中で一寸の光陰を惜しんで努力した偉人がたくさんいます。その中でも、福沢諭吉は緒方洪庵の適塾で修行していたころ、布団で寝たことがなかったというくらい勉強したそうです。また、勝海舟は極貧の中で生活し、夏の夜には蚊帳がなく、冬の夜には布団がなく、机に寄り掛かって眠る日々の中で、オランダ語を修得したそうです。歴史上に名を残す人は、自分を鍛えるためにすさまじい努力をしたのですね。塾生にも将来への大きな夢を持ち、努力を惜しまない人になってほしいと願っています。